



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

「人間のいのちと健康、尊厳を守る日本赤十字社」として
～日赤の「総合力」を生かした柔軟な事業展開～

日本赤十字社は、全国に展開する支部、病院、血液センター、奉仕団等のネットワークを通じて、日々皆さまの身近で活動しています。

いざという時に地域の住民同士が助け合えるよう応急手当や防災・減災の講習を行い、子どもたちには知識と行動を身につける防災教育を推進しています。各地の赤十字病院では、地域医療ニーズに応じた安心・安全で質の高い医療の提供に日々努めるとともに、医師や看護師が研修や訓練を重ね、有事に備えています。また、赤十字ボランティアや奉仕団は、日本全国で地域のニーズにあった様々な活動を展開することで、支援を必要とする方に寄り添いながら、地域に根ざした赤十字事業を推進しています。

引き続き「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を実現していくため、社会の期待にしなやかに対応し、地域における医療・健康・福祉の充実及び強化を図るとともに、日本赤十字社の強みであるグループ力・ネットワーク力、ボランティアの力をより効果的かつ最大限に発揮し、社会のニーズに応じた事業を展開してまいります。

昨年度、日本赤十字社は、国内で発生した6件の主な災害に対し、救護班等の派遣や救援物資の配布を行いました。また、災害で被災された方々のためにお預かりした約25億円（平成30年1月現在。東日本大震災義援金及び熊本地震災害義援金を除く。）の義援金は、被災地の配分委員会を通じて被災者に届けられています。一方、海外の災害や紛争の救援のためにも、9か国・地域へ76人を派遣したほか、国際赤十字が発した緊急アピールに対して総額2億600万円相当の支援を行いました（平成30年1月現在）。

赤十字は、苦しんでいる人がいれば、国籍や人種、宗教等に関わらず、中立・公平の立場で、そして、ボランティアの精神で救いたいと考え、行動します。その思いを共有し、実現するための一助となってくださる方が一人でも多く増えることを願っております。

毎年5月は、1901年に第1回ノーベル平和賞を受賞した赤十字創始者アンリー・デュナンの誕生日（5月8日）にちなみ、赤十字活動を普及するための「赤十字運動月間」としてまいります。皆さまには、引き続きのご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成30年2月

日本赤十字社 社長

近衛 忠輝